



51

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年4月25日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

そこが聞きたい 「ワンヘルス」でパンデミックに備える

27日(火)＝オピニオン面

新型コロナウイルスは、動物から人へ広がった人獣共通感染症といわれています。その世界的な大流行をきっかけに、人間だけでなく動物や地球環境も含めた

生態系全体を健全な状態にするよう目指す「ワンヘルス」という考え方に注目が集まっています。ワンヘルスの重要性や、実現するために必要な方策などにつ

いて村田浩一・日本大特任教授＝写真＝に聞きました。



市場の外でひそかに取引されるハトハチ中国江蘇省無錫市で昨年5月撮影

特集ワイド

コロナ下で広がる激辛ブームの訳

28日(水)＝夕刊特集ワイド

新型コロナウイルス感染拡大の猛威により、長引く巣ごもり生活。うんざりする日々の中、激辛ブームが再び到来しているそうです。なぜコロナ下の今、多くの人々が激辛料理を求めているのでしょうか？

激辛といえば、タレントの加藤紀子さん＝写真＝は大の激辛好きでも知られています。メキシコ原

産の唐辛子の一種で世界一辛い唐辛子とも言われるハバネロなどを自ら栽培して、料理に使っているそうです。そんな加藤さんらに激辛料理の魅力などについて聞いてみました。



東京・霞ヶ関の官庁街



バイデン米大統領の施政方針演説

30日(金)＝1面など



バイデン米大統領が上下両院合同会議で、包括的な政策を示す施政方針演説に臨みます。政権発足から100日を控え、2億回分の新型コロナウイルスワ

クチン接種の目標を達成したことなどをアピールする模様です。外交では「競争相手」と位置づける中国との関係をどう語るのかも注目点です。

論点 霞ヶ関接待問題を考える

28日(水)＝オピニオン面

NTTなどによる総務省幹部らへの接待問題では、いまだに官と民の間でグレーな付き合いがはびこっている現実が明らかに化しました。霞ヶ関が伏魔殿と化しているという指摘もあります。

問題を起こした官僚の元上司だった片山善博元総務相や、官民双方の事情に詳しいコンサルタント、日本に住む英国人の社会人類学者はどのように考えるのか、聞きました。

新毎日

150
2022年2月21日
毎日新聞創刊150年

5月公開予定の映画「ヒノマルソウル」舞台裏の英雄たち〜(毎日新聞社など製作委員会)とタイアップした毎日新聞のテレビCM、ラジオCMの放送を開始しました。この映画は1998年の長野冬季五輪スキージャンプ団体での金メダル獲得の裏側を描いた感動の物語。CMでは、共生社会の実現を目指す本紙の連載特集「ともに」も紹介しています。お楽しみください。(古谷巨)



※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。